

実務経験事例報告書

受講番号：

所属先：

氏名：

- | | | |
|------------|--|---------|
| 1. 対象者 | ● 年 齢： | ● 病 名： |
| | ● 性 別： | ● 生活状況： |
| 2. 製作品目と制度 | ● 製作品目： | ● 制度利用： |
| 3. 使用目的・環境 | ● 使用目的： | ● 使用場所： |
| | | ● 主介助者： |
| 4. 問題点の整理 | (● 障害状況・身体状況から目的達成のための姿勢を保持するうえでの問題点
● 使用条件等からくる、装置を製作するうえで特に配置を要する点) | |

5. 問題解決のための対応・対策

6. 製品写真 ※写真の裏面に受講番号および氏名を黒のボールペンで記入する事。

製品写真貼付欄 1

1. 「問題解決のための対応・対策」の内容が分かる「装置のみ」の写真を貼り付ける事。

※ スペースが不足する場合は別紙に貼り付け、「受講番号・氏名」を記入してください。

製品写真貼付欄 2

2. 対象者が使用中の写真を貼り付ける事。

※ 必要に応じて目ふせ等の処置を施する事。スペースが不足する場合は別紙に貼り付け、「受講番号・氏名」を記入してください。

実務経験事例報告書

受講番号：

所属先：

氏名：

1. 対象者	● 年 齢：3 歳	● 病 名：C.P
	● 性 別：男	● 生活状況：在宅
2. 製作品目と制度	● 製作品目：座位保持装置 保育所用	● 制度利用：座位保持装置
3. 使用目的・環境	● 使用目的：食事 安全に 30 分程度で完了	● 使用場所：保育所の室内 ● 主介助者：保育士

4. 問題点の整理

{

- 障害状況・身体状況から目的達成のための姿勢を保持するうえでの問題点
- 使用条件等からくる、装置を製作するうえで特に配置を要する点

- ① 頭部と体幹部の支持性の弱さと臥位姿勢で過ごす時間が長いことによる、頭部の頭蓋変形・体幹部の側弯変形がみられる。
- ② 頭部と体幹部の支持性の弱さから、頭部の重さを支えきれずに、頸部が後屈する。
- ③ 咀嚼、嚥下がうまく習得されていない。

- ④ 体幹部の崩れを防止して、咀嚼、嚥下に集中できるよう姿勢を保持することが重要。

5. 問題解決のための対応・対策

- ① 支持性の弱さに配慮し、トータルコンタクトの背もたれ・座面によって支持して、体幹部の崩れを防止する。
- ② 座面にはアンカーサポートならびに骨盤の側方支持を配し、背もたれには腰部サポートならびに体幹部の後方・側方・下方からの支持が得られるように十分配慮する。
- ③ 変形した頭部にヘッドレストの形状を合わせるとともに、頸部から頭部までの矢状面の形状を調整し、頸部が後屈しないようにする。
- ④ 活動と休息の時間とリクライニング角度の管理を介助者と話し合っておく。

6. 製品写真



実務経験事例報告書

受講番号：

所属先：

氏名：

1. 対象者

● 年 齢：41 歳

● 病 名：C.P.

● 性 別：男

● 生活状況：在宅

2. 製作品目と制度

● 製作品目：座位保持装置付
車いす

● 制度利用：車いす

3. 使用目的・環境

● 使用目的：外出時移動や食事
作業所での作業

● 使用場所：主に通所作業所

● 主介助者：母親

4. 問題点の整理

- 障害状況・身体状況から目的達成のための姿勢を保持するうえでの問題点
- 使用条件等からくる、装置を製作するうえで特に配置を要する点

① 左凸のCカーブの側弯のため、座位では体幹部が回旋を伴って右前方に倒れ、頭部を挙げて活動することができない。

② 右の坐骨に痛みを感じるので対策が必要。

③ 主な介助者が高齢の母親なので、車いすの重量ならびに操作性に配慮が必要。

5. 問題解決のための対応・対策

- ① 作業所での活動が主な目的になるので、頭の位置をできるだけ中間位の保てるようシュミレーションして、姿勢を決定する。
- ② 側弯に伴う体のねじれに配慮し、体幹部を正面に向けて大腿部は少し右方向に向けることとする。
- ③ 背もたれには、体幹部の姿勢の崩れ方向に配慮した支持面を検討する。
- ④ 坐骨部での除圧の必要性などを考え、背・座とも採型モールドとし、座には低反発クッションを配することとした。
- ⑤ 骨盤部・体幹部のサポートとテーブルを利用した肘支持で、実用的な体幹部の安定が得られることから、車いすの重量ならびに操作性に配慮しリクライニング機構は無しとした。

6. 製品写真



実務経験事例報告書

受講番号：

所属先：

氏名：

1. 対象者

● 年 齢：50代

● 病 名：C.P

● 性 別：女

● 生活状況：施設入所

2. 製作品目と制度

● 製作品目：座位保持装置

● 制度利用：座位保持装置

3. 使用目的・環境

● 使用目的：移動・食事

● 使用場所：施設内

● 主介助者：施設職員

4. 問題点の整理

- 障害状況・身体状況から目的達成のための姿勢を保持するうえでの問題点
- 使用条件等からくる、装置を製作するうえで特に配置を要する点

① 左凸のCカーブ側弯、肋骨隆起有。

② 現在使用中の座位保持装置では、側弯の影響で体幹の回旋に伴う右方向への倒れがみられる。

③ 肋骨隆起有部、仙骨部、両大転子部分に褥瘡ができやすくなっている。

④ 使用時間の経過ならびに姿勢の崩れにより、腹下部の圧迫がみられる。

5. 問題解決のための対応・対策

① シミュレーターを用い、側弯による右方向への倒れが少なくなるように、また大腿部・下肢の位置など全体的なバランスを考慮しながら、姿勢を決定する。

② テーブルを使用し、上肢の支持面を作り体幹の安定を図る。

③ 褥瘡予防に低反発素材を各所に配置し、圧力分散を図る。

④ 腹部の圧迫を軽減する目的で、ティルト機構に背もたれリクライニングを追加したフレームとした。

6. 製品写真

